

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立緑小学校
校長名	川崎 貞昭

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学年ごとに各教科の状況を見ると、2～5年生は全ての教科で全国平均正答率を上回っており、目標値もほとんどの教科で上回っている。・6年生においては、国語と算数は全国平均を上回り、国語においては、昨年度より1.1ポイント上がっている。・各教科の観点別に見ると、ほとんどの学年が昨年度の平均正答率を上回っており、少しずつ基礎学力の定着に向けて成果が現れていると言える。	<ul style="list-style-type: none">・6年生の社会、理科、外国語は、全国平均を下回っている。全校で基礎・基本を確実に積み重ねていく努力をし、活用する能力へつなげていく必要があると言える。・2～4年生は記述する問題に対して、5～6年生は、話すこと・聞くことに関する問題に対して、課題がある。目標値は上回っているものの、正答率の比較を他の項目と行うと低い傾向がある。様々な教科や場に応じて、自分の思いや考えを表現する力をさらに高めていく必要があると言える。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「自己認識」の項目では、「家族・友だち・先生からのささえ」の肯定値が平均値を上回っている。周りの人に支えてもらったり、協力したりしながら生活していることを感じられている児童が多いことが分かる。・「学級環境」の項目では、全体的に肯定値を上回っている。中でも「学級の絆」「対人ストレス」に対しては肯定値が高いことが分かる。児童同士が互いに認め合える温かい学級の雰囲気やよい関係が築けていることがうかがえる。	<ul style="list-style-type: none">・「自己認識」については、全体的に見ると肯定値が低く出ている。また、学年が上がるごとに少しずつ低くなる傾向があった。日々の生活の中で成功体験を味わわせ、自信を高めていけるようにする。・「社会性」の項目の「発信力」では、学年が上がるごとに低くなる傾向が見られた。教師側も授業改善を図りながら、児童が自信をもって自分の考えを伝える必然性をもたせていく。また、交流を通して考えが深まったりする経験を重ねていき、自信をもてるようにしていく。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・児童の思い(「もっと知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」など)を大切にした授業作りを行ったことで、見通しをもって主体的に学習に取り組める児童が増えてきている。	<ul style="list-style-type: none">・意識的・継続的に学力向上に向けて取り組んではいるものの、個人差をなくしていくためには、課題が残る。活動から成功体験や充実感を味わいながら学びを深めていける場を意識的に設定していくなどする。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習環境の整備、学習習慣の定着

- ・日々の授業で ICT 機器（タブレット）を効果的に活用し、学習意欲や学力の向上につなげていく。家庭学習の質と量を工夫し、学習習慣の確立を図る。ロイロノートやミライシード等の活用を図り、主体的に課題に取り組み、家庭での繰り返しの活用に生かせるようにする。また、教員が児童の実施状況等を把握しながら、学習の定着を図れるようにする。
- ・生活の週目標などに「みどりスタンダード」を取り入れ、実践しやすくしながら、児童が学級の規範意識をより高めていけるようにする。家庭への啓発も継続的に行っていく。
- ・ICT の活用だけではなく、ノート指導の両方を大切にし、それらを通して、見方・考え方を働かせる授業を意識して行う。児童一人一台のタブレット端末の活用に応じた授業を組み立てていく。
- ・低位の児童においては、放課後学習などにより、知識・技能の確実な定着を図る。（3年生を中心）

(2) 言語活動による自己の考えの深化、発展

- ・場面に合った言語活動により、各自の思いやよさを共有したり、深めたりできるようにする。また、児童が自ら思いを語りたくなるような話材や教材を用意し、話し合い活動を通してよりよい考えが生まれるなどのよさを児童が実感できるようにする。
- ・児童が自分の考えを分かりやすく伝えることに自信がもてるようにするために、教師が日々の授業を通して、授業改善を行う。自ら考え、自分の思いや考えを生かした課題に向かう学習活動を取り入れ、授業改善を進めていく。
- ・週4日の朝学習の充実を図り、週に1回は「よむ YOMU ワークシート」を4～6年生を主に取り組み。読解力の向上と合わせ、自分の考えをもてるように、取組を積み重ねていく。

(3) 個や少人数に応じた指導の充実

- ・週に2回程度、朝学習の時間に、児童の実態に合わせて活用問題に取り組みせたり、ミライシードを活用して、個に応じた予習や復習ができるようにしたりする。
- ・児童の実態に合わせ、活用問題に取り組みせたり、ミライシードを活用したりして、個に応じた予習や復習ができるようにする。
- ・定着が弱いところや、復習させたいところを抜粋して配信し、必ず実施・経過が把握できるようにして取りこぼしがないようにしていく。
- ・「問題データベース」「ふりかえりシート」の活用を朝学習の時間や長期休みを利用して取り組みせ、確かな学力の定着を図る。
- ・算数を中心に、「東京ベーシックドリル」を活用して、個の定着度を把握しながら、より効果的に振り返りの学習に取り組みさせる。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・各教科、各観点で、目標値を上回るようにする。
- ・各教科の活用問題において、目標値を5ポイント以上、上回るようにする。
- ・記述式の問題において、無回答をなくし、目標値を上回るようにする。
- ・E・D層の割合について、本年度を超えないようにする。